TOKYO MAIL NEWS
輸送サービス労組 東京地本
No. 270 / 2023.3.27

3月22日
東地申第58号

「2023年度東京総合車両センター業務量等について」に関する申し入れ

団体交渉を行う!（その1）

1. 組織再編により東京総合車両センターは首都圏本部所属となったが、東京総合車両センターの役割を明らかにすること。また、「ミライの車両サービス＆エンジニアリング構創」の進捗状況を示し、東京総合車両センターの将来像を明らかにすること。

回答：安全で快適な車両の提供を基軸に、中長期的には長編成ステンレス車両をメンテナンスする総合車両センターと位置付けており、首都圏輸送を支えながら、CBM 技術の中核的な役割を担っていくこととなる。また、「ミライの車両サービス＆エンジニアリング構創」については、実現に向けて引き続き検討を行っているところである。

組　合	会　社
◆ 首都圏本部となっても、東京総合車両センターの役割は変わらないか。	➢ 組織は変わったが、東京総合車両センターの役割は変わらない。
◆ メンテナンス近代化Ⅲ期から役割は変わっていないということで良いか。	➢ そうだ。ステンレス車両が増えてきている中で、東京総合車両センターはフラッグシップを掲げていく。また、CBM の中核でもある。
◆ S&E 構創の進捗状況を示すこと。	➢ 将来に必要な設備、システム化を検討している。月一回、各科の代表を集めて全体会議を行っている。
◆ 会議の内容が現場に伝わってこない。聞いても「決まっていない」と返された。社員が主役となっていない。	➢ 作業する社員の意見も必要だと思っている。S&E 構創の進捗状況を説明する場がない。十分ではないことを伝え、意見を吸い上げてつくっていく。
◆ 工事の着工は進んでいないのか。	➢ そうだ。
◆ 会議の情報を全体化するべきだ！説明する場がないというが、書面などでも紹介できる。	➢ 意見として承る。
◆ 設備はどのように変わるのか。	➢ できるところは自動化していく。できる限り、運送や運搬は自動化を考えている。
◆ グラウンドのところを利用して建てる計画に変わりないか。	➢ 変わらない。

2. 他の総合車両センターと行われる定期検査および改造工事の業務量調整の考え方をそれぞれ明らかにすること。

回答：業務量調整については、これまでと同様に、各総合車両センターの業務量等を勘案し実施していく。

組　合	会　社
◆ 業務量調整の考え方は、これまでと変わりないか。	➢ 主に大宮総合車両センターとなるが、それぞれの設備など有効活用して、業務量調整をしていく。
◆ 工程が組めない等、東京総合車両センターで施工できない業務量を大宮総合車両センターに業務量調整を行うという考えで良いか。	➢ 今は、工程が組めないよりも、それぞれの設備、人の能力を活かす考えで業務量調整をしている。
◆ これまでの業務調整の考え方を変えたということか。	➢ 首都圏本部となり、お互いに首都圏を支える総合車両センターとして、能力とバランスを見て行っている。
◆ 考え方を変えたのであれば「これまでと同様に」という回答はおかしい！	➢ 「業務量等を勘案し」と回答している。これまでも能力を活かすために業務量調整を行っている。業務的に負荷が大きいところでも業務量調整を行っている。これまでと考え方は変わらない。

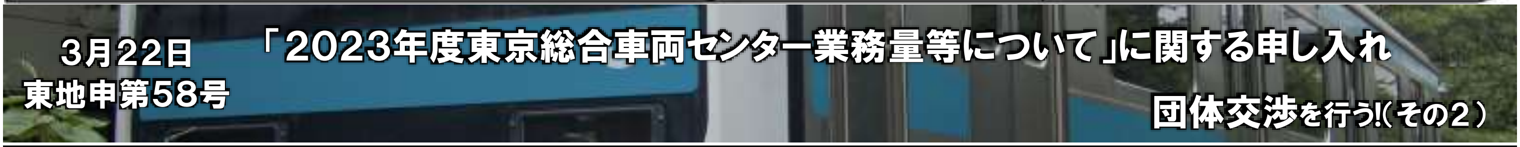
✓ **東京総合車両センターがフラッグシップであり、その上で業務量調整を行っていることを確認！**

その2へ

TOKYO MAIL NEWS

輸送サービス労組
東京地本

No. 270 / 2023.3.27



3月22日
東地申第58号

「2023年度東京総合車両センター業務量等について」に関する申し入れ

団体交渉を行う!(その2)

3. 東京総合車両センターにおける2023年度の標準数を示し、余裕をもった工程と要員を確保し各科において業務の平準化を図ること。また、各派出所の担務養成を行い、要員を確保すること。さらに、近年東京総合車両センターにおいて若年層の離職者が多く発生していることについて会社の認識を示し、技術技能継承を確実にできる体制を確保し、労働環境の改善をはかること。

回答：業務に必要な要員と工程は確保していくとともに、必要な教育・訓練は実施していく考えである。引き続き、時代の変化に柔軟に対応するとともに、社員一人ひとりの働きがいの向上と、生産性向上による経営体質の強化を通じて、安全・サービスレベルの向上を図っていく考えである。

組　合	会　社
◆ 標準数を示すこと。	➢ 柔軟な働き方を進める中で、作業ダイヤ数として示している。標準数という考え方は持ち合わせていない。
◆ 500名以上の職場で、要員が足りているのかわかりづらい。科ごとに作業ダイヤ数を示すべきだ！	➢ 示す考えはない。
◆ 回答には「必要な要員と工程は確保していく」とあるが、超勤前提で工程が組まれている。要員が足りていない！	➢ 床下洗浄のために超勤が発生していることは認識している。入場時間を調整したが、本線が営業中の時間帯であり、調整できていない。
◆ 超勤前提で工程を組むことはあってはならない！作業ダイヤや始業時間の変更、入場時間の調整などで対応するべきだ！	➢ 恒常的に業務が必要なものは、作業ダイヤや始業時間を見直すなどの方法はある。引き続き検討していく。
◆ 田町派出では、監督員補助が3名体制、代務に入れるのは2名のみで、要員確保が課題である。養成を行うべきだ！	➢ 田町派出所は他派出所と業務の中身が違う。養成については現場に伝えていく。
◆ 離職の理由について、認識していることはあるか。	➢ 理由は個別であり、一概ではないが、全体的傾向として入社して永続的に働くことを前提にしていない。転職市場も変わり、雇用の流動化が進んでいる。
◆ 離職者からは「やりがいを感じず、面談で希望しても反映されない」と聞いている。会社の魅力が無くなっている！	➢ やりがいは個別の思いもある。様々な経験をして技術をつけていくことが必要だ。
超勤前提の工程が組まれていることは認められない！直ちに是正すべきだ！！	

4. 装置科における空調接触器検修業務を業務委託する目的と根拠を明らかにすること。また、教育を今年度内に確実に行い車両品質が低下しないようにすること。

回答：グループ会社と一体となり、安全で快適な車両の提供と輸送品質向上の実現に向けて実施するものである。なお、必要な教育・訓練は実施しているところである。

組　合	会　社
◆ 委託の目的を明らかにすること。	➢ 「グループ会社と一体となった業務体制のさらなる推進」施策を踏まえて、将来の社員数減少に対して効率的な業務運営に対応するためである。
◆ なぜ、空調接触器を業務委託したのか。	➢ 常に社員が張り付いて行う作業ではない。また、グループ会社の受け入れる体制ができたため、委託を判断した。
◆ 教育は今年度内を求めているが、大丈夫なのか。	➢ 教育は進んでいる。OJT で行っている。最終的な見極めを行い、本実施していく。現状、問題はない。
◆ 車両品質が低下しないということで良いか。	➢ 品質低下しないように行っていく。

その3へ

TOKYO MAIL NEWS
輸送サービス労組 東京地本
No. 270 / 2023.3.27

3月22日
東地申第58号

「2023年度東京総合車両センター業務量等について」に関する申し入れ
団体交渉を行う!(その3)

5. 老朽取替工事など設備に関する工事について2023年度に計画しているものを具体的に明らかにすること。また、労働環境改善のための必要な設備を整備すること。

回答:引き続き、全体の優先順位等も踏まえながら必要な設備の整備は行っていく考えである。

組　合	会　社
◆ 来年度、計画している設備工事を明らかにすること。	➢ クレーン、冷暖房、集塵装置、昇降装置などを取り替えていく予定である。
◆ 装置科で蒸気漏れがある。	➢ 確認する。

6. 11月24日に輪軸作業場で火災が発生し避難誘導等に課題があったが、どのように対策を講じてきたのかを明らかにし、今後、防災の観点からも現実に即した実践的な避難誘導訓練を行うこと。

回答:避難誘導方法等について振り返りを行い、問題点を把握し順次対策は実施しているところである。引き続き、必要な教育・訓練は実施していく考えである。

組　合	会　社
◆ 火災が発生した原因は何か。	➢ バフ掛けで火花が出て、集塵機が燃えたと推察する。
◆ 避難誘導等について、認識している課題はあるか。	➢ ①火災発生時の連絡体制では、総務科がどのように放送すれば良いかわからなかった　②安否確認では、社員がどこにいるのかわからず、難しさがあった　③消防への通報では、勤務地の住所がわからなかった　④消火器の使い方　⑤放送が聞こえにくい箇所があった。
◆ 対策しているところはあるのか。	➢ 放送の定型文を作成し、住所は事務所に掲出した。放送が聞こえにくい箇所では、拡声器の使用と電話連絡を行うなどの対策をとることにした。
◆ 避難訓練の開催日に業務があるため、全員参加ができない。振り返りもない。 ◆ 避難訓練は、年一回の開催義務がある。参加できる工夫や体制について調整を検討すること。	➢ 工程が調整できるところは参加することになっている。年間スケジュールで工程を組むため、うまくできていないところがある。
◆ 当日は野次馬ができていた。「訓練だと思った」など「自分は大丈夫」という“正常性バイアス”が発生している。いのちを守る観点から、防災意識を高める取り組みを行うべきだ！火災だけではなく、震災も必ず起きる！実践的な防災訓練を行うべきだ！	➢ 意見を承り、検討する。現場へ伝えていく。 ➢ 今回を機に見直しできればと感じている。防災訓練などを通じて、継続的に行いたい。
◆ S&E 構創でグラウンドをつぶしたら、どこへ逃げるのか。品川区も指定している。	➢ 状況に応じて決めていく。行政とも調整していく。

安全で良質な車両が提供できる職場を
つくり出すために、検証運動を強化しよう！